

斑点米カメムシ類の水田への飛来に注意しましょう！

～「あきたこまち」などの早生品種は防除適期を逃さないようにしましょう！～



写真1 アカヒゲホソミドリカスミカメ



写真2 アカスジカスミカメ

[現在の発生状況]

- ① 7月上旬現在、水田周辺雑草地（畦畔・農道等）における斑点米カメムシ類の発生地点率は平年並だが、すくい取り虫数は平年よりやや多い（表1）。
- ② 7月上旬現在、雑草地における発生種はカスミカメムシ類が9割を占めており、特に、県央、県南、県西地域で生息が多い。（表2）。

表1 水田周辺雑草地における斑点米カメムシ類の地域別生息状況（平成26年7月上旬調査）

地域	地点数	発生地点率(%)			すくい取り虫数(頭/10回振り)		
		本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北	8	51	67	8-10	3.0	7.5	8
県央	15	57	66	8	11.5	13.0	2
鹿行	6	83	64	1-3	7.2	5.7	5
県南	19	89	69	3	16.2	9.9	2
県西	9	56	71	9-10	17.0	10.2	3
全県	57	70	68	6	12.3	9.3	3

1) 平年:平成16～25年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:過去11年間における本年値の順位を示す(1-3は1位から3位まで同じ数値であることを表す)。

表2 水田周辺雑草地における斑点米カメムシ類の生息状況（平成26年7月上旬調査）

地域	地点数	すくい取り虫数(頭/10回振り・地点)						
		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリ		その他	合計	
県北	8	0	(0%) ¹⁾	2.6	(88%)	0.4	(13%)	3.0
県央	15	4.7	(41%)	6.4	(55%)	0.4	(4%)	11.5
鹿行	6	3.0	(42%)	2.3	(33%)	1.8	(26%)	7.2
県南	19	8.4	(52%)	6.7	(42%)	1.1	(7%)	16.2
県西	9	2.8	(16%)	14.1	(83%)	0.1	(1%)	17.0
全県	57	4.8	(39%)	6.8	(55%)	0.8	(6%)	12.3

1) ()内の数字は、斑点米カメムシ類合計虫数に占める割合を示す。

[防除対策]

- ① 水田周辺のイネ科雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となるため、除草に努める。ただし、出穂期近くになってからの除草は、斑点米カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、出穂二週間前までに終える。また、水田内のイネ科雑草やカヤツリグサ科雑草も斑点米カメムシ類を誘因するので、除草に努める。
- ② 「あきたこまち」等の早生品種を栽培している水田では、成虫の飛来が集中する恐れがあるので注意する。また、その他の品種についても周辺より出穂の早い水田では注意する。
- ③ 斑点米カメムシ類の成虫を対象とした防除適期は穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は、防除を実施する。なお、カスミカメムシ類は、小型で発見しにくいので注意する。
- ④ 斑点米の発生防止には、斑点米カメムシ類の幼虫を対象とした防除が有効であり、防除適期は、出穂 10～15 日後頃（乳熟期）である。なお、あきたこまちの出穂期は平年よりやや早く、7 月下旬に乳熟期となる圃場もあるので防除適期を逃さないように注意する。
- ⑤ 防除薬剤は表 3 を参考にする。防除の際には、収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。

表 3 稲のカメムシ類に「散布」で登録のある主な薬剤（平成 26 年 7 月 10 日現在）

薬剤名	希釈倍数(倍)	収穫前日数- 剤の使用回数	有効成分
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000	7-3	ジノテフラン
キラップフロアブル	1,000～2,000	14-2	エチプロール
スミチオン乳剤 ^{※1}	1,000	21-2	MEP
MR. ジョーカーEW	2,000	14-2	シラフルオフェン

※1 市販のスミチオン乳剤の中には稲に登録のないものがあるので確認のうえ、使用する。

注 1) 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ、周辺作物への飛散に留意して使用する。

注 2) 育苗箱施薬、有人ヘリ防除または無人ヘリ防除を行っている場合は、本剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数に十分注意する。

※ 今後の発生状況等については、7 月 28 日発表予定の病害虫発生予報 8 月号に掲載しますので、参考にして下さい。